

## CONTENTS

### TOPICS

- ① ダイバーシティ推進シンポジウム  
「多様性を力に変える環境構築のために」
- ② 第7期 女性技術者リーダー養成塾
- ③ 夏季オープンキャンパス  
女子学生向け相談コーナー
- ④ NITech CAN 女性研究リーダー養成塾  
第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」
- ⑤ NITech CAN 工学女子キャリア形成塾  
「英語プレゼンテーションセミナー」
- ⑥ 第8回「女性が拓く工学の未来賞」授賞式

### REPORT

第8回「女性が拓く工学の未来賞」受賞者の声

## TOPIC 1 ダイバーシティ推進シンポジウム 「多様性を力に変える環境構築のために」

2021年9月15日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「多様性を力に変える環境構築のために」をオンライン開催しました。木下学長の挨拶で開会し、ダイバーシティ推進センター加野特任准教授が本学のダイバーシティ推進事業について説明しました。

基調講演では、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)プログラム主管の山村康子氏を講師にお迎えし「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの実績と今後の動向」について、お話しいただきました。2006年から開始された文部科学省人材育成費補助事業における女性研究者支援の取組の成果として、事業実施機関では、女性テニュア教員の離職を85%減らせたこと、一方、課題として、研究統括者となる女性研究者の割合が向上していないことが挙げられ、女性研究者の上位職登用にに向けた取り組み強化の必要性が指摘されました。



山村康子氏

続いて特別講演として、国立大学法人奈良女子大学 三成美保教授より「多様な性を包摂する環境づくりのために」と題して、大学におけるSOGI(性的指向、性自認)対応の重要性についてご講演いただきました。豊富な調査データをもとに、国際動向や日本の現状を詳しく説明され、個人の性自認や意向に即した生活が尊重される環境構築に向けて大学が取り組むべきことを明確に示されました。講演後の質疑応答では、オールジェンダートイレの導入の際の留意点、大学での他の取り組み、大学の今後のダイバーシティ施策の在り方について、活発な意見交換が行われました。



三成美保教授

最後に、ダイバーシティ推進センター長 井門副学長より、閉会の挨拶と講師、参加者への謝辞が述べられました。学内外より66名が参加し、重要ながら未だ普及が進んでいない視点を学び、課題を共有する有意義な機会となりました。

### 参加者のご意見・ご感想

- ・カミングアウトが普通に受け入れられることが真の理想、というご発言は、とても自分に響きました。自身の意識について考え直す機会となったようにも思います。有難うございました。
- ・思春期に入る男女の子どもがおります。彼らとの生活の中で、多様性を感じる事が多く 自身の子ども時代とは、まったく違うと感じることも多いため、シンポジウムを興味深く拝聴いたしました。
- ・セクシュアリティの多様性への配慮や、工学分野におけるダイバーシティ推進の重要性を知ることができて、有意義だった。



## TOPIC 2 2021年度 第7期 女性技術者リーダー養成塾

2021年8月24日、ダイバーシティ推進センター主催「第7期 女性技術者リーダー養成塾」をオンライン開講しました。本養成塾は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、女性技術者リーダーとして長く活躍し続けるために必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供することを目的としています。

第7期は、ものづくり企業の第一線で活躍する女性リーダー、マーケティング、知財の専門家と名古屋工業大学ものづくりテクノセンター長 北村憲彦教授を新たに講師陣に迎えて、カリキュラムを一新しました。11月12日の卒塾式・塾長講演を含め5回の講座を開催し、県内外企業15社から19名の女性技術者が受講しました。

「自分とチームを信じてキャリアビジョンを描こう(講師:株式会社eight代表取締役 鬼木利瑛氏)」では、長期的視点でキャリアデザインする方法を学びました。



鬼木利瑛氏

塾長講義「アフターコロナに向けたキャリアリーダーの展望と実践(講師:株式会社光機械製作所代表取締役社長 西岡慶子氏)」では、イノベーションを創造するプロフェッショナルになるために必要な心構えと、チームで有効なディスカッションを行うためのスキルを学びました。受講生は、互いに意見を引き出しながら、議論を深めました。



西岡慶子氏

**入塾式・第1回**

「プロジェクト・マネジメント:新しい価値を創造するために(講師:北村憲彦教授)」では、複数の開発事例をもとに、原理に則した試行錯誤と失敗原因追究の重要性、開発者としての心構えについてお話がありました。



北村憲彦教授

「コミュニケーションの基本スキルを考える(講師:鷺見克典教授)」では、コミュニケーションの失敗例を分析するグループワークを行い、情報伝達の問題点を整理する手法を学びました。



鷺見克典教授

「『ポカミス』をテーマにもものづくりの安全を考える(講師:神田幸治准教授)」では、ものづくりの現場における人的なエラーの実例を用いて分析・対策法を学び、具体例について対策を考え結論を発表しました。



神田幸治准教授

**第2回**

「『品質』をテーマにもものづくりのマネジメントを考える(講師:愛知工業大学 仁科健教授)」では、ばらつきを抑えるためのフェーズに応じた対策や統計を用いた原因説明方法について学びました。



仁科健教授

「製品開発にいかすマーケティング手法(講師:株式会社電通 安藤真澄氏)」では、マーケティングの基本的な考え方、新事業構想のための顧客ニーズの掘り下げ方について説明がありました。



安藤真澄氏

「ものづくり現場における私らしいリーダーシップスタイル(講師:トヨタ自動車株式会社 パワートレーン製品企画部 主査 落合清恵氏)」では、講師の経験に基づく複数の事例を題材に実践的なディスカッションを行いました。



落合清恵氏

**第3回**

「ものづくりにおける知財マネジメント(講師:INPIT 池原敏郎氏)」では、知的資産を企業戦略に位置付け、商品開発に活用するための幅広い視点が示されました。



池原敏郎氏

「成果を引き出すためのチームビルディングの実践(日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員 我妻三佳氏)」では、組織やチームの特性、目標、現状を踏まえて、様々なタイプのリーダーの資質や行動様式を使い分ける必要があること、そのために、自分や相手のコミュニケーションスタイルを知ることの重要性について学びました。グループワークでは、自身がどう成長し、どのようなリーダーを目指すのかを明確にイメージしました。



我妻三佳氏

**第4回**

第5回の卒塾式は、名古屋工業大学4号館ホールにて対面で行われ、塾生一人一人に修了証が授与されました。塾生は「リーダーになるための行動宣言」として、本養成塾で学んだことを基盤として、今後職場でどのように活かし、どんなリーダーになりたいのか、1分間でスピーチをしました。

塾長講演では、株式会社光機械製作所 代表取締役社長 西岡慶子氏(名古屋工業大学客員教授)が「経営に活かすダイバーシティの力」と題して、雇用状況が目まぐるしく変化する中、リーダーに求められることを説明し、ご自身の経験から学んだプロフェッショナルの条件、よきリーダーとして心がけるべきことについてお話されました。塾生とその上席者等39名が出席し、塾生からは、「行動宣言を1分以内にまとめるのは大変でしたが、自分がリーダーになるために一番最初に何をしたら良いかということをよく考えることができました。」「困難が立ちばだかっても乗り越えてこられた塾長のキャリアに心を打たれたとともに、ダイバーシティの持つ力を深く理解することができました。」という感想が寄せられました。





## 第7期 女性技術者リーダー養成塾 受講生の声

- ・講師の方々が色々な経歴の方々の、社内でも「良い時間の使い方ができたね」と言われるくらい充実した講座内容でした。また、同期生の方々も所属も年代もバラバラで発想や着眼にハッとさせられ、逆に悩みや理想のリーダー像などでは共感する部分も多くあり、オンラインでもグループワークでしっかりと議論ができました。(電気機器メーカー勤務・30代)
- ・とても内容の濃い講義と皆様とのグループワークによって、リーダーとは何か、自分の中での得意意識苦手意識、など新たな発見が多くあったように思います。またプロジェクトの進め方など実際の業務を進めるにあたって身につけるべき考え方など、これからの仕事に役立てていきたいと思っています。(工作機械メーカー勤務・20代)
- ・「リーダーシップに必要なスキルは実践を積み重ねなければ身につかない」ということを念頭に置き、今後は、仕事に限らずまとめ役を申し出るなど、ちょっとしたことから始めてみたいと思います。(産業機器メーカー勤務・30代)

TOPIC 3 夏季オープンキャンパス  
女子学生向け相談コーナー

2021年8月6日、オープンキャンパスにて女子学生団体彩綾～SAYA～の協力のもと、女子学生向け相談コーナーを設けました。



オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、高校3年生に限定した事前予約制で開催されました。相談コーナーには16名が訪れ、受験、学科、学生生活、就職などについて、彩綾のメンバーに積極的に質問していました。

経験に基づく親身なアドバイスが参加者大変好評で、「丁寧に答えていただいて、とても分かりやすかったです。」「大学生活の話を聞いて、来年が楽しみになりました。」などの声が聞かれました。

TOPIC 4 NITech CAN女性研究リーダー養成塾  
第1回研究力向上セミナー  
「外部資金の獲得に向けて」

2021年8月26日、第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」をオンライン開催しました。

初めに、生命・応用科学系プログラム 柴田哲男教授に「研究の進め方と外部資金の獲得」と題して、ご講演いただきました。豊富な審査員経験をもとに、研究への誠実な姿勢は申請書の中に表れるため、真摯な取り組みを長年続けることが重要であるとお話しされました。



次に、リサーチ・アドミニストレーション室 URA 薮上あづさ氏より「申請書作成のポイント」と題して、科研費・助成金の申請書作成時に注力すべき点や効果的な研究計画の見せ方についてご説明いただきました。



学部生から教員まで27名が参加しました。参加者からは、「研究の経緯や姿勢について参考になりました。」「オリジナルな研究の重要性を改めて認識いたしました。」などの感想が寄せられました。

TOPIC 5 NITech CAN 工学女子キャリア形成塾  
「英語プレゼンテーションセミナー」

2021年9月22日から11月24日に、Leafy Learn代表ヤング・タム先生を講師に迎えて、英語プレゼンテーションの基本スキル向上を目指すセミナーを5回にわたりオンライン開催しました。

第1回は、マインドマップを活用したプレゼンテーションの構成の考え方を学びました。第2回では、内容の組み立て方、焦点の絞り方について学びました。第3回は、オンラインプレゼンテーションで必要となる聴衆をひきつけるハンドジェスチャーや声のトーンを中心に、プレゼンターとしてのふるまい方を実践的に練習し、第4回では、使用するスライドについて、少ない情報で明確に論点を伝えるための効果的な方法を学びました。受講生は効果的なハンドジェスチャーや声のトーンを取り入れながらプレゼンテーションを行うことに苦心しながらも、練習を重ねました。最終回の第5回では、全員が一人ずつ完成したプレゼンテーションを行い、質問にもスムーズに対応できるようになりました。



# TOPIC 6 第8回「女性が拓く工学の未来賞」授賞式

女性が拓く工学の未来賞は女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、ダイバーシティの推進に資することを目的するものです。

本年度は、優秀賞にアヤル アヤド フセイン アルズバイディ氏(生命・応用化学専攻 研究員)、奨励賞に富田紗穂子氏(生命・応用化学専攻 博士後期課程3年)が選出されました。10月4日に授賞式が行われ、受賞者に表彰状、トロフィー、副賞が授与されました。



< 優秀賞 >

アヤルアヤドフセインアルズバイディ研究員

## REPORT 第8回「女性が拓く工学の未来賞」受賞者の声

### 優秀賞



アヤルアヤド  
フセインアルズバイディ氏  
生命・応用化学専攻  
研究員

このような榮譽ある賞をいただき、とても光栄に思います。  
私は、名古屋工業大学の博士後期課程に入学する際に、専攻を化学工学から材料科学に変更したため、日常生活に必要な日本語力も、研究課題の科学的バックグラウンドもない状態で、留学生として日本にやってきました。このような不足がありながらも、周囲の方々から無限のサポートを受け、さらに、先見性のある教授のもとで、優秀な学生たちと一緒に研究をするという幸運に恵まれました。

博士後期課程の学生、そして研究者としてこちらで過ごした年月は、私を科学者として、また人間として大きく変えてくれました。さらに、再生可能エネルギーによる持続可能な社会の実現、環境汚染や気候変動への対応という、現代の社会において最も野心的で挑戦的な目標を追求する貴重な機会を与えてくれました。

ここまでの道のりは、ハードワークに満ちた地道なものでしたが、喜ばしい成果もありました。この榮譽ある賞に寄せて、教授、研究チーム、日本で第二の家族となった友人たち、そして、もちろん無限の愛と支援を与えてくれたイラクの家族に対する感謝の気持ちを、改めて心に刻みたいと思います。

### 奨励賞



富田紗穂子氏  
生命・応用化学専攻  
博士後期課程3年

この度は名譽ある賞をいただき、誠にありがとうございました。受賞にあたり評価していただいたこれまでの研究業績は、所属する研究室の皆様、共同研究者の方々、家族のサポートがあってこそのものであり、改めて感謝申し上げます。

大学進学前から研究者を志し、現在は光刺激によってその機能を発揮するタンパク質について、その機能発揮メカニズム解明を目指し研究を行っております。日々試行錯誤を繰り返して、ほんの少しずつデータを蓄積する中、未来賞の受賞ができたことは、自分にとって自信につながりました。

研究者として活躍するための基礎を学ぶ中で、自分の成果で病気に苦しむ人を助けたいと思い、また企業での研究職に興味を持ったため、来年度からは製薬企業での研究に取り組みます。研究を行う環境が大きく変わりますが、今後も研究者としてのキャリアを積み上げていけるよう精進して参ります。また、本学の課程博士学生として、博士進学を考えている後輩の方々にとってロールモデルの一つとなるよう努力を続けて参ります。

発行

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL | 052-735-5121, 052-735-5279

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」

E-MAIL | [diversity-crew@adm.nitech.ac.jp](mailto:diversity-crew@adm.nitech.ac.jp)

URL | <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>

2021年12月発行